
協議会の活性化に向けた 運輸支局の役割 ～新潟県での例を交えて～

長岡技術科学大学 環境社会基盤系
佐野 可寸志

地方運輸局職員・県職員向け地域公共交通研修会, 2024.3.14

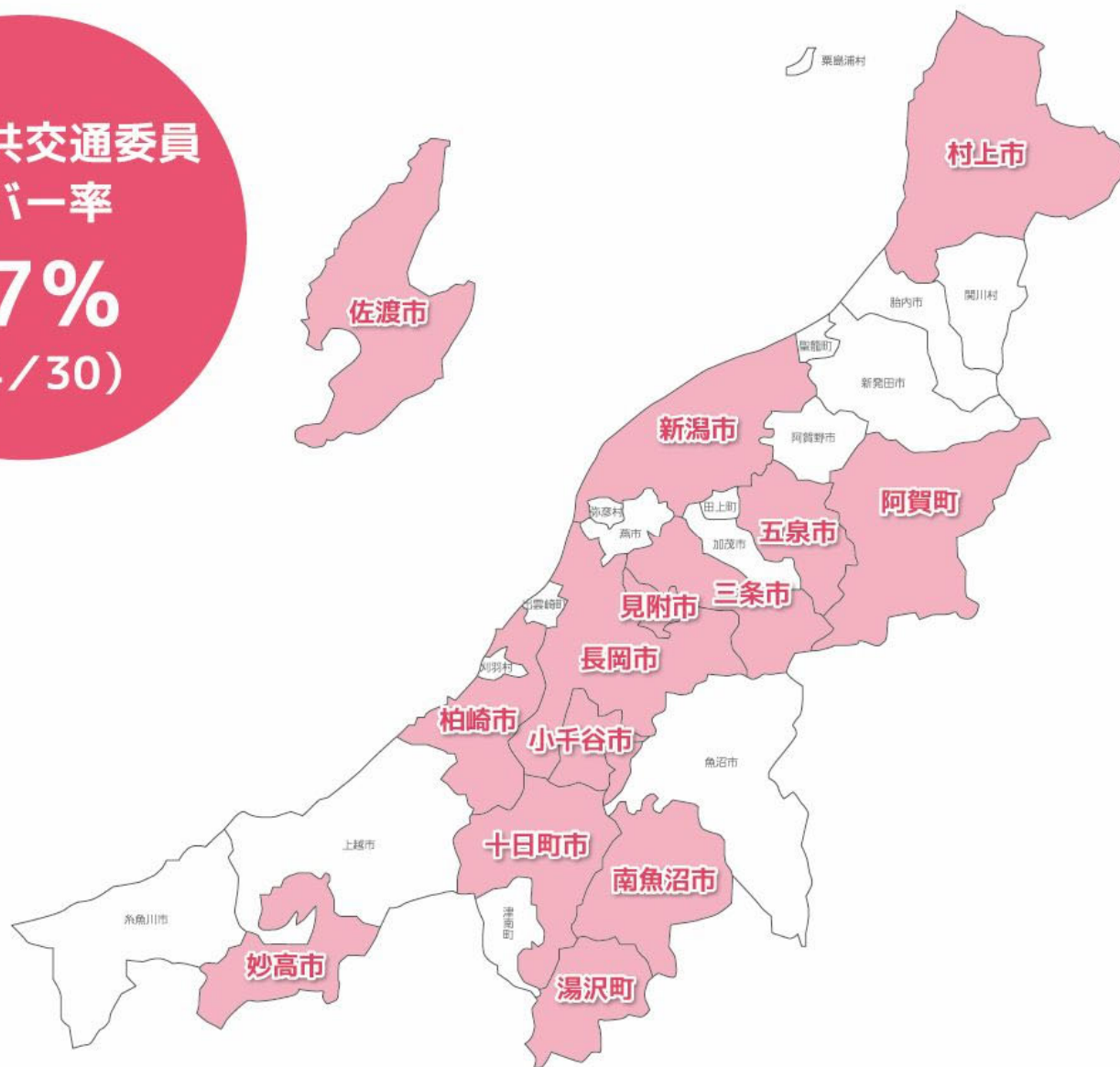
1. 自己紹介

新潟県の約半分の自治体で
協議会委員やっています

1. 自己紹介

地域公共交通委員
カバー率

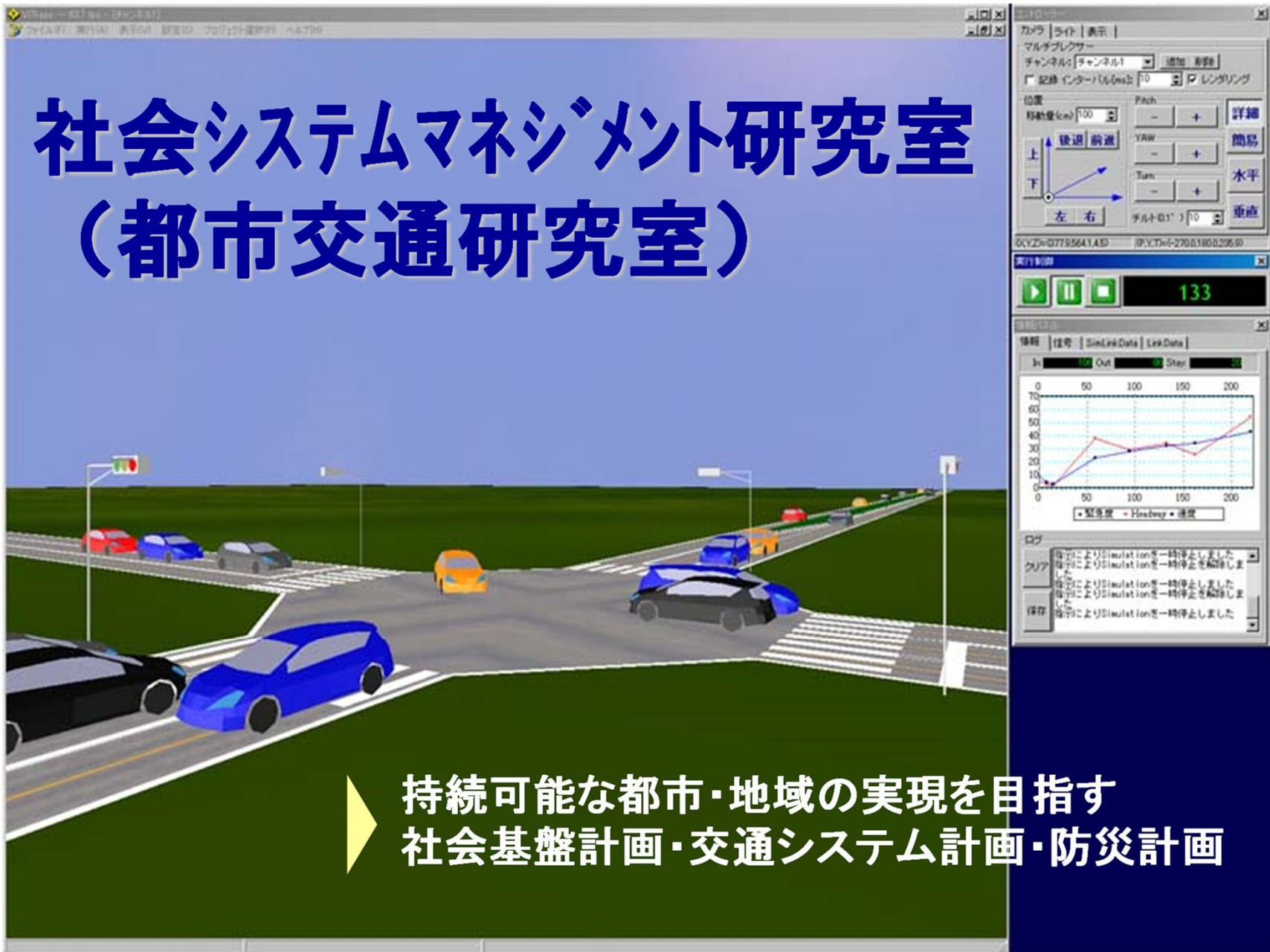
47%
(14/30)



村上市
新潟市
阿賀町
佐渡市
五泉市
三条市
見附市
長岡市
小千谷市
南魚沼市
湯沢町
十日町市
柏崎市
妙高市

1. 自己紹介

社会システムマネジメント研究室 (都市交通研究室)



▶ 持続可能な都市・地域の実現を目指す
社会基盤計画・交通システム計画・防災計画

スタッフ紹介

教授



佐野 可寸志

博士(工学)
【東京大学】

講師



加藤 哲平

博士(工学)
【北海道大学】

特任
助教



高橋 貴生

技術士(建設部門)
【長岡技大OB】
※半分企業人

研究室の概要

安全・安心かつ快適な交通を実現し豊かな社会へ貢献するため、道路上や街中で日々身近におきる交通現象を分析し、社会資本整備や交通政策が交通環境や都市環境に与える影響を評価、さらに新たな対策を立案する研究を行っています

Freedom
&
仲良し

明るく
楽しく
アットホームな
研究室です

ザ！解析系

統計解析
プログラミング
シミュレーション解析
Etc...

国際交流

海外実務
チューター
沢山の留学生
Etc...

近年の研究テーマー交通

1. 長岡市におけるタクシーの運行効率化に関する検討
2. 中山間地域・過疎地におけるライドシェアの適用可能性
3. 三条市デマンド交通の相乗り促進施策の効果分析

Key Word 『公共交通利用促進』

4. 事故リスク情報を考慮した経路選択モデル
5. 冬期豪雪時の大規模滞留に関する研究
6. 長岡まつり花火大会後の渋滞対策に関する検討
7. 渋滞下での運転者の心理負担軽減方策に関する研究

Key Word 『渋滞緩和』『行動解析』『交通心理』

近年の研究テーマーその他

1. 原子力発電所被災時の避難行動に関する研究
2. 来街者向け津波避難誘導アプリケーションに関する研究

Key Word 『防災』 『意識-行動』

3. 応用都市経済モデルによる新潟市中央環状線の建設効果
4. 空間情報を用いた首都圏における産業立地動向分析

Key Word 『物流』 『立地計画』

5. 道の駅の機能および立地に関する研究
6. 農村地域への移住促進および空き家提供に関する研究

Key Word 『地域活性化』 『既存ストックの活用』

2. 協議会の活性化に向けての所感



本日のに向けて実施された
ヒアリングの結果をお話します

2. 協議会の活性化に向けての所感

問 地域公共交通協議会の課題は？

委員の意見を引き出すポイント

- **マスタープラン策定のような総論**を検討する際には協議会は良い役割を発揮
 - － 様々な立場からの意見を集めることが可能
- 実際には、協議事項は**細かな個別施策**の話が多く、ほぼ決まっている**内容で意見のしようがない**
 - － チェックのみであれば書面協議が良い
- マスタープラン策定についても、詳細まで詰めてから初めて見せられるケースもあり
 - － **もっと意見ができる段階**で協議会にあげてほしい

2. 協議会の活性化に向けての所感

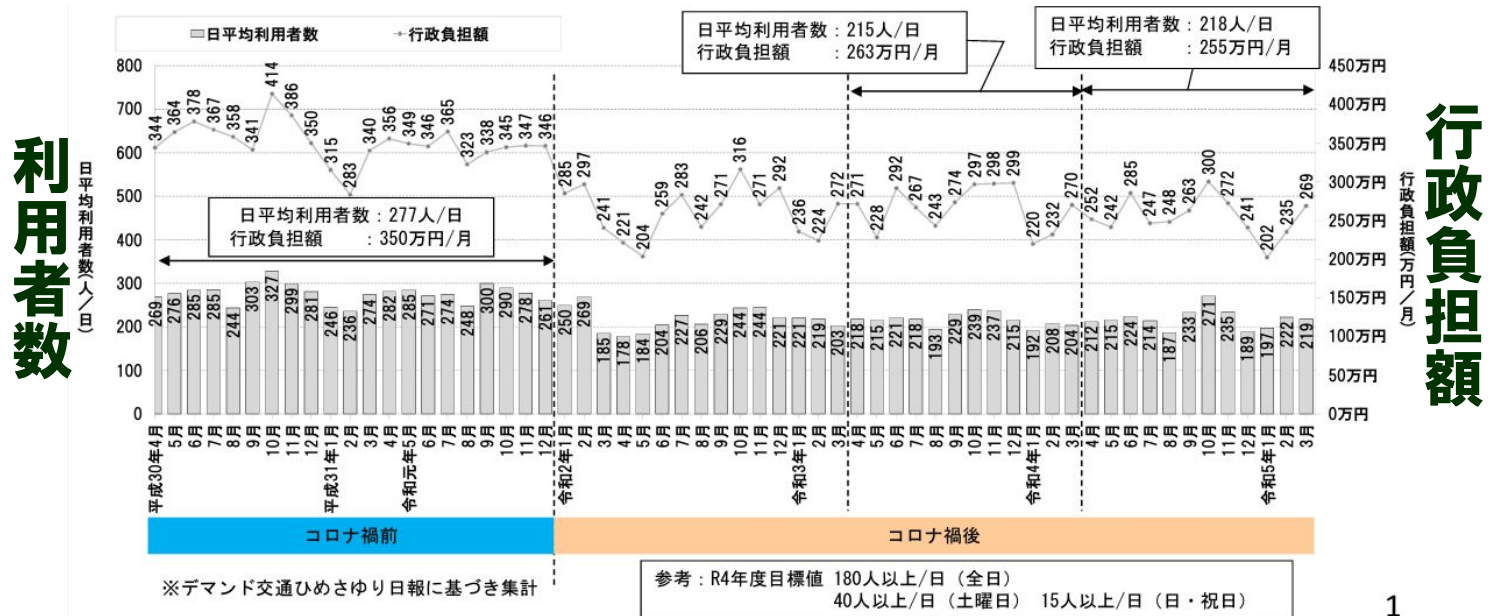
問 地域公共交通協議会の課題は？

協議資料について

○しっかりとデータを示す協議会とそうでない協議会の差が大きい

—特に、経年的な変化から利用状況を分析したり、コスト面にも着目して費用対効果を評価したりすることが重要

分析例→ (三条市)



問 地域公共交通協議会の課題は？

運輸局職員の役割

- 運輸局は、**法律や制度に強い**ことが売り
 - ーアップデートされた情報を**鮮度が高いうちに協議会の場で周知**すると良い
- 他地域での事例**をもとに、当該市での**活用可能性**についてアドバイスすることも必要
- 運輸局は、もっと施策の**計画の段階から議論に入ってくる**と良い
 - ーできあがった施策に対して、法律や制度に照らし合わせて Yes or No のジャッジをするだけではもったいない

2. 協議会の活性化に向けての所感

問 地域公共交通計画に位置づけられた施策を推進するための課題は？

予算化について

- 施策実施のためには**予算化**が必要。**協議会の活性化**により予算化の機運が高まる
- 車社会では難しい面があるが、**公共交通に対する市民の関心**が高まれば自治体も動くのでは

規制緩和について

- 全国的に**基準が統一**されていて地方に合わないこともある
ー例えば、10人乗りのバンの乗車定員緩和(14人程度乗れるようにする＝タイではそうなっている) →後ほど説明

2. 協議会の活性化に向けての所感

問 「共創」に向けた課題は？

- **地域説明会**を丁寧に
- 協議会の場に**若い人がいない**とよく感じる
 - － 若者代表のような組織があれば参画してもらってはどうか
 - － また、公共交通メインターゲットの高校生に協議会に出てもらうと良いかもしれない

問 整備局やまちづくりとの連携強化のポイントは？

- **熟度の低い段階**で地域公共交通協議会の場に出してもらえれば、みなさんからの色々な意見が出やすい

3. 活発な協議会の事例紹介 ～新潟県湯沢町～

3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P16

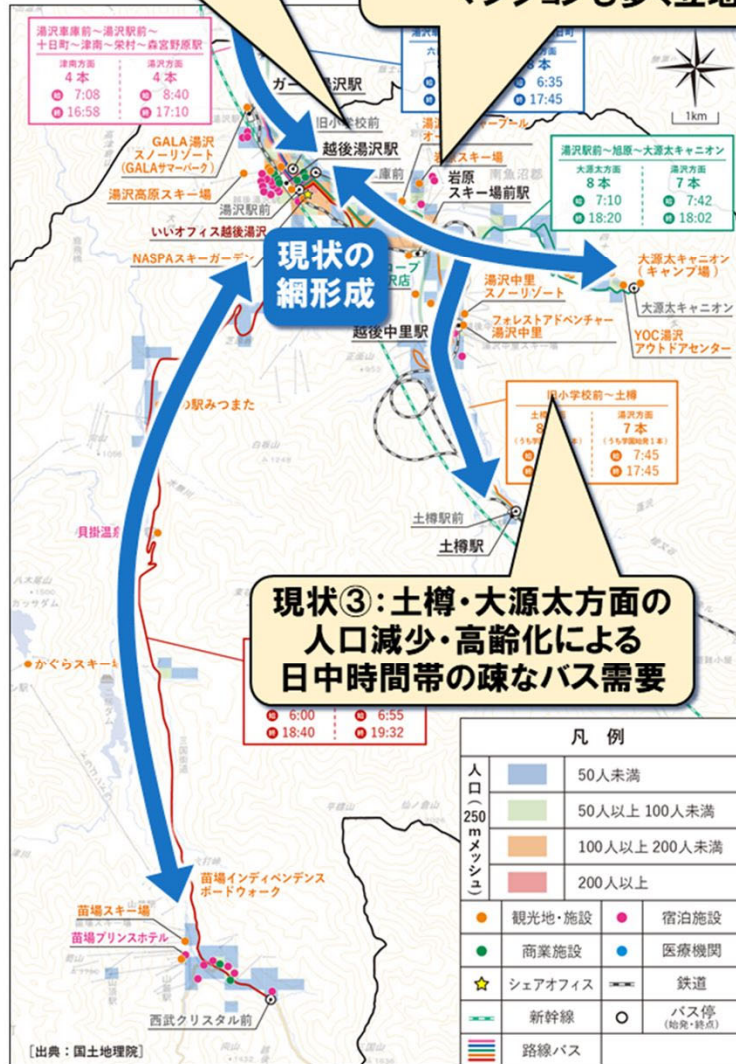
- ①きっかけづくりとしての湯沢版MaaS実証事業
- ②施策段階に応じた地方運輸局との密なやりとり
- ③地域活性化企業人制度の活用
 - ▶ 外部人材(コンサル)有効活用
 - ▶ 綿密な関係ステークホルダー協議・調整
- ④観光部局(町、DMO)との密な連携
- ⑤アジャイルな施策実施・フィードバック
- ⑥町長の協議会参加
 - ▶ 協議会の熱量が伝わり予算化へ

3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P17

①きっかけづくりとしての湯沢版MaaS実証事業

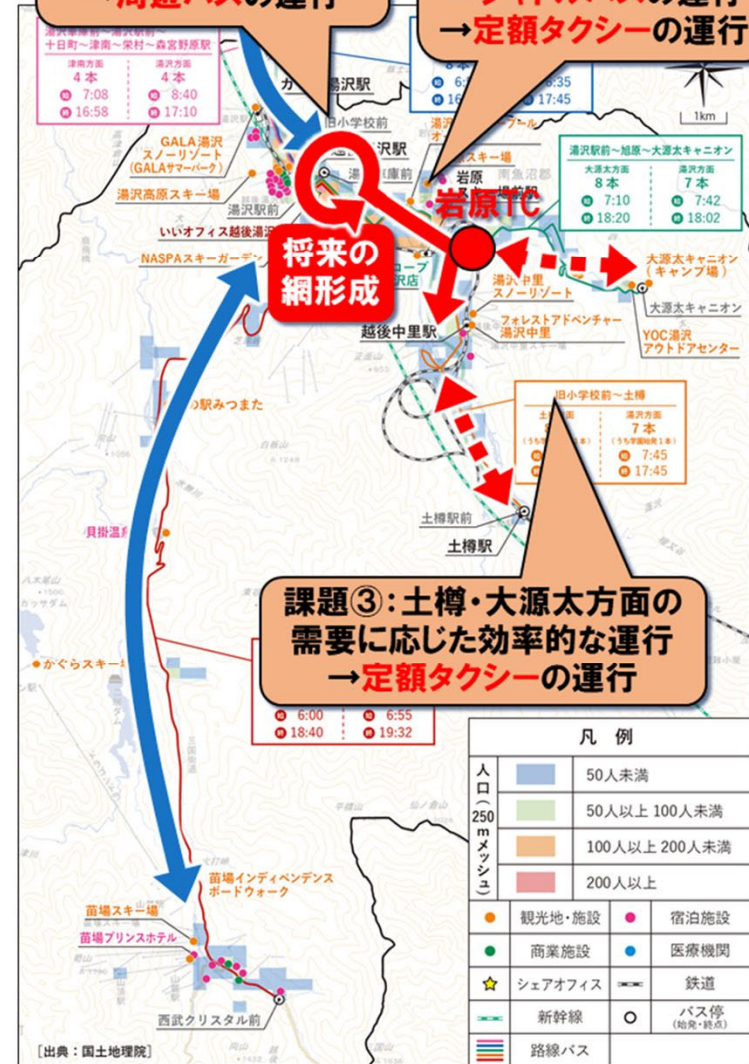
現状①:湯沢駅周辺の回遊性が低い

現状②:岩原地区には飲食店やレジャー施設、リゾートマンションも多く立地



課題①:湯沢駅周辺の回遊性向上
→周遊バスの運行

課題②:岩原地区の利便性向上
→シャトルバスの運行
→定額タクシーの運行



課題③:土樽・大源太方面の需要に応じた効率的な運行
→定額タクシーの運行

3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P18

①きっかけづくりとしての湯沢版MaaS実証事業

①湯沢～市街地循環～岩原シャトル (21条)

・湯沢駅周辺の回遊性を高めるための市街地循環バス + 岩原地区の利便性向上に向けたシャトルバス

②湯沢～岩原～中里シャトル (21条)

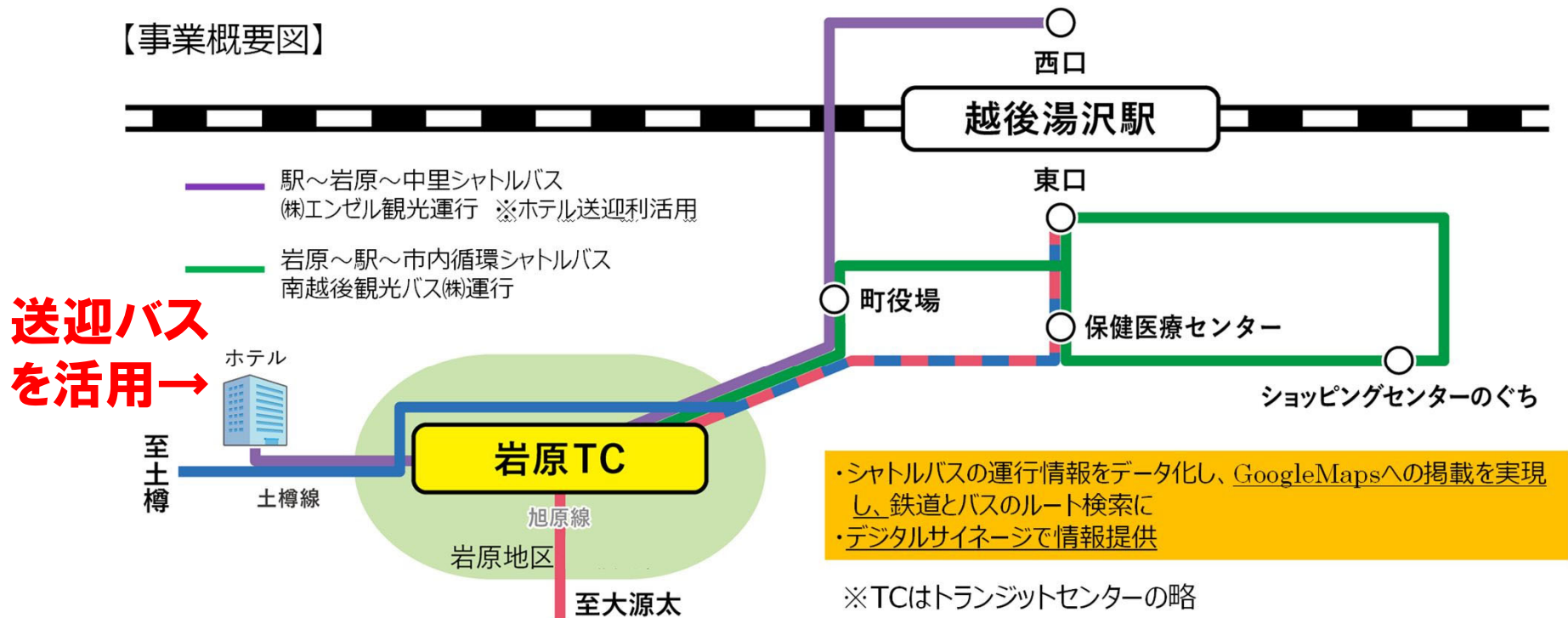
・岩原地区および中里地区の利便性向上に向けたシャトルバス (ホテル送迎バスのリソースを活用)

③一括定額タクシー (一般乗用)

・岩原地区のきめ細やかな移動利便性を高めるための定額タクシー (住民限定で土樽・大源太地区も導入)

※岩原地区は、飲食店やレジャー施設、リゾートマンションも多く立地し、運行充実による利便性向上の取組効果が期待される (=多頻度化を図るための実証事業として、①+②で運行間隔30分を目指す)

【事業概要図】

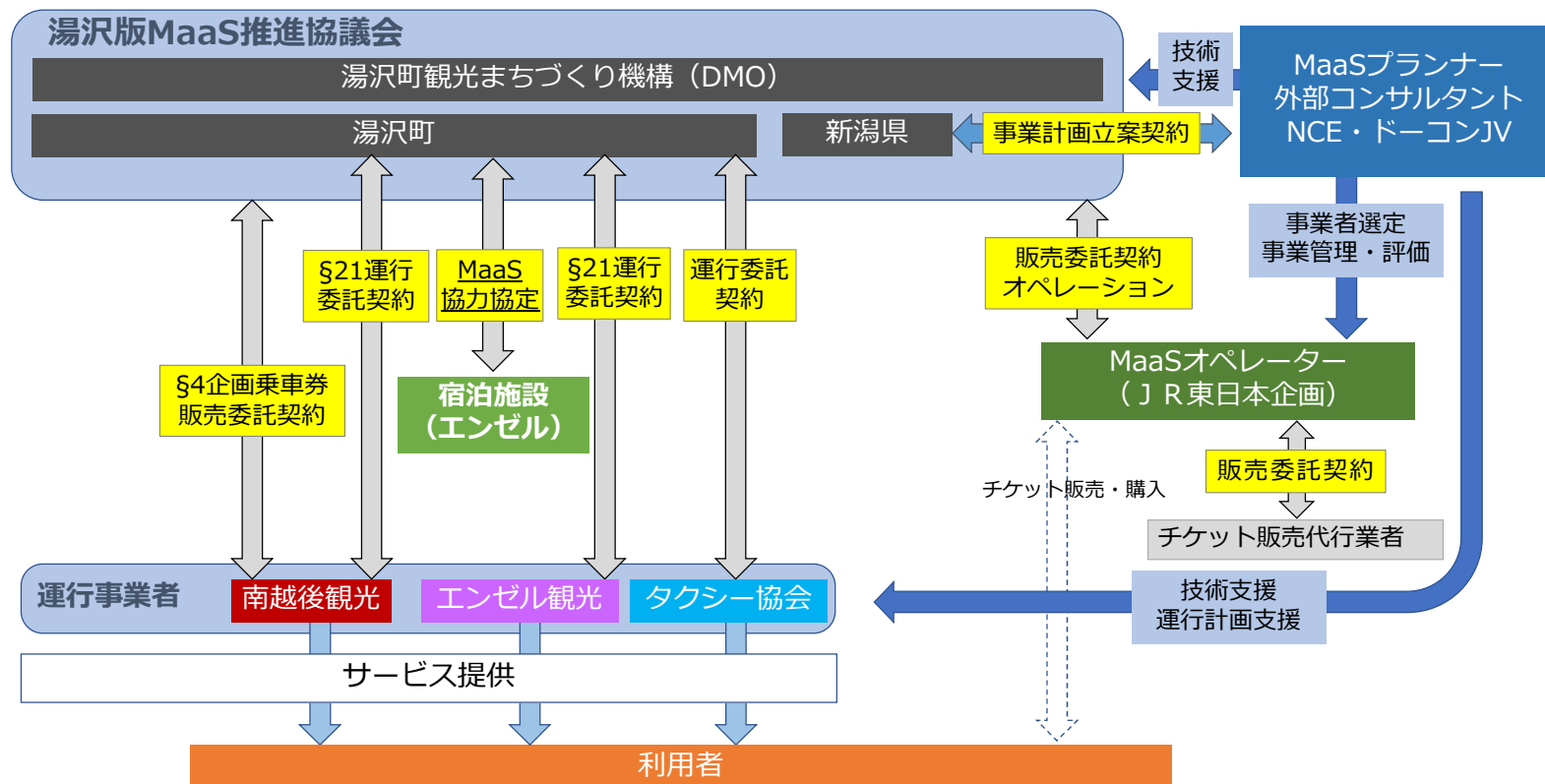


3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P19

①きっかけづくりとしての湯沢版MaaS実証事業

ポイント

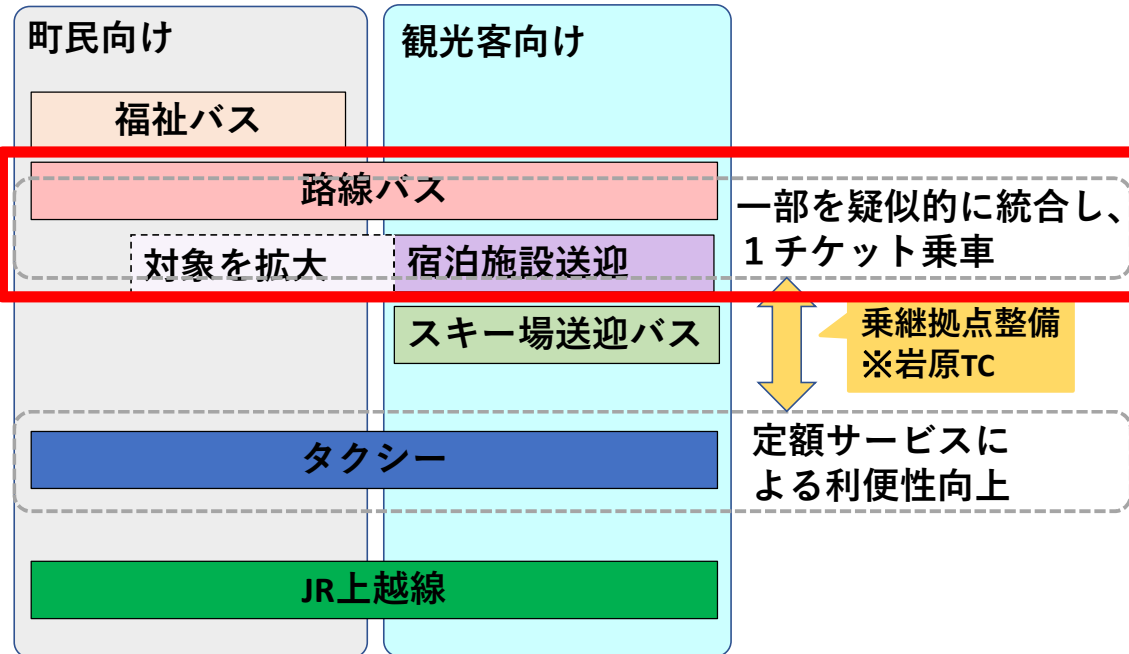
- **MaaS協議会の委託路線とし、サービスレベルをコントロールしたこと**
- **宿泊施設はMaaS協議会に対して協力金を支払ったこと**
→ 参画する**宿泊施設を増やす**ことで持続可能なスキームに
- **宿泊施設はMaaSチケットを宿泊者に配布**→ 地域内の交通が**乗り放題**に



3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P20

①きっかけづくりとしての湯沢版MaaS実証事業

yuûmoによる実証実験（2021夏）



<重要施策>

- ・湯沢版MaaS推進協議会設置（県・町・DMO）し、運行計画等を立案・調整
- ・GTFSデータ整備による、GoogleMapの経路検索を可能に
- ・乗継拠点でのデジタルサイネージによる案内

実証実験の効果と課題

7-①町民・来訪者の満足度向上

- ・利用者の90%以上が町内の移動が便利になったと思うと回答
- ・駅周辺の回遊性の向上や、宿泊施設送迎バスの活用による利便性の向上が利用者に評価
- ・食事・病院等への日常生活の足に

7-②町民・来訪者の行動変容の発現

- ・二日券利用の場合の平均乗車回数は約3.8回で、新たなトリップが創出
- ・来訪者の97%が湯沢町への再訪問を希望
- ・おでかけ回数は平均0.9回/日増加

8. 今後の課題

- ・認知度の向上
- ・市街地循環線と越後湯沢駅⇄岩原の利便性の維持
- ・冬期の輸送資源の活用と統合された情報の提供
- ・冬期の町内回遊性の向上

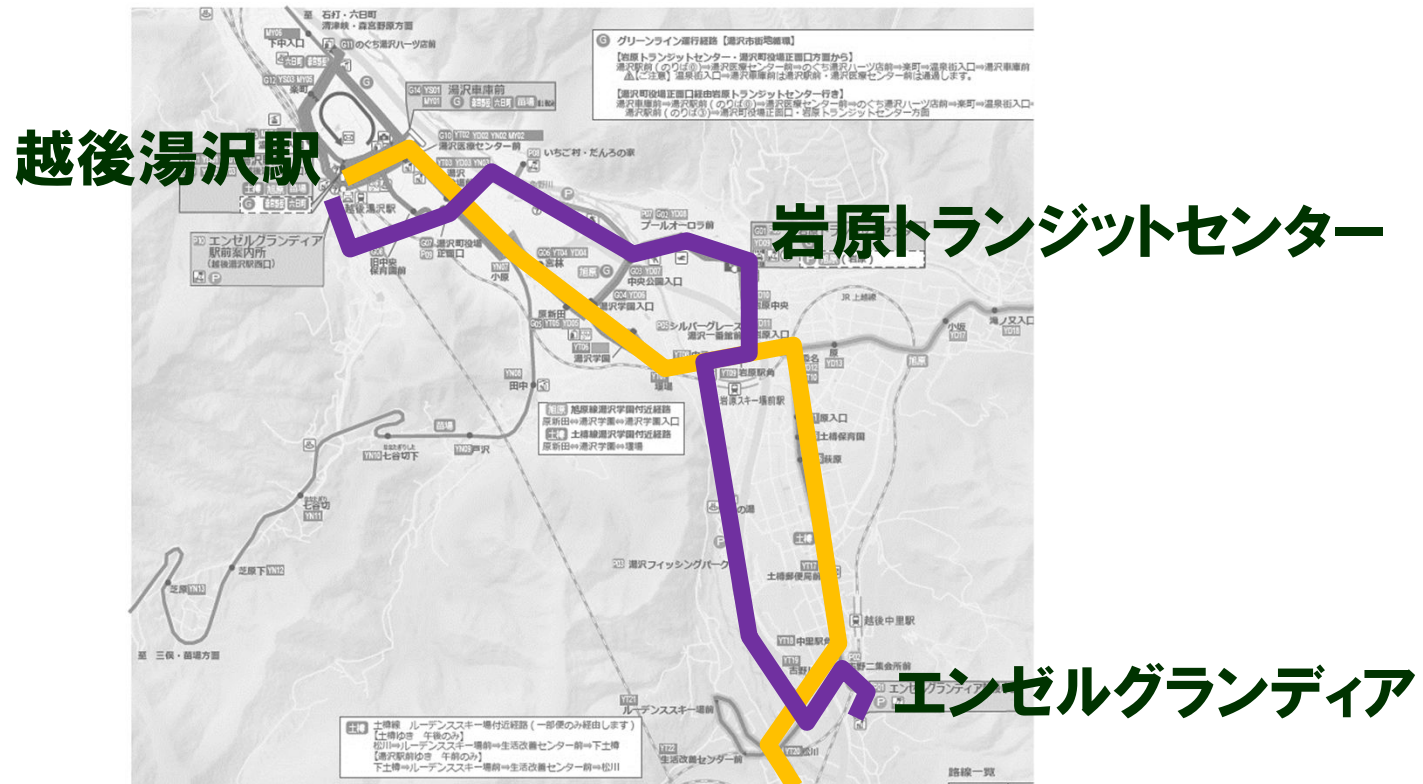
今年度実証実験を踏まえ、冬季及び通年実施に向けたフェーズ展開を考える必要

3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P21

②施策段階に応じた地方運輸局との密なやりとり

実証事業段階：主に許認可の相談

- ホテル宿泊者向け送迎バスの一般開放(21条貸切乗合)について、実施に向けて柔軟に相談
- 土樽線(4条乗合)との棲み分けを一緒に考えていただいた



3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P22

②施策段階に応じた地方運輸局との密なやりとり

法定計画策定段階：つっこんだ法定計画の中身の相談

- **法定計画にサービスレベルを定める**際に、町民や交通事業者の意見を踏まえ、一緒に考えていただいた

施策推進段階：企画段階から相談

- 地域内の様々な**ステークホルダーと共創**すべく、一緒に考えていただいている（進行中）

3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P23

③地域活性化企業人制度の活用

地域活性化起業人（企業人材派遣制度）

参考

○ 地方公共団体が、三大都市圏に所在する企業等の社員を一定期間受け入れ、そのノウハウや知見を活かしながら地域独自の魅力や価値の向上等につながる業務に従事してもらい、地域活性化を図る取組に対し特別交付税措置。

対象者

三大都市圏に所在する企業等の社員（在籍派遣）

※三大都市圏に本社機能を有する企業等については派遣時に三大都市圏に勤務することを要しない

受入団体

①3大都市圏外の市町村

②3大都市圏内の市町村のうち、条件不利地域を有する市町村、定住自立圏に取り組む市町村及び人口減少率が高い市町村

1,432市町村

※R5.4.1現在

活動内容(例)

地域活性化に向けた幅広い活動に従事

○観光振興

○地域産品の開発・販路拡大

○ICT分野(デジタル人材)

○地域経済活性化(中小企業のハンズオン支援)

○中心市街地活性化

等

特別交付税措置

○派遣元企業に対する負担金など起業人の受入れの期間中に要する経費 上限額 年間560万円/人

○起業人が発案・提案した事業に要する経費 上限額 年間100万円(措置率0.5)/人

○起業人の受入準備経費 上限額 年間100万円(措置率0.5)/団体
(派遣元企業に対する募集・PR、協定締結のために必要となる経費)

期間

6カ月～3年

自治体

民間のスペシャリスト人材を活用した地域の課題解決へのニーズ
⇒ 民間企業において培った専門知識・業務経験・人脈・ノウハウを活用
⇒ 外部の視点・民間の経営感覚・スピード感覚を得ながら取組を展開

民間企業

社会貢献マインド
人材の育成・キャリアアップなど
⇒ 民間企業の新しい形の社会貢献
⇒ 多彩な経験を積ませることによる人材育成・キャリアアップ
⇒ 経験豊富なシニア人材の新たなライフステージを発見

(協定締結)

3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P24

③地域活性化企業人制度の活用

○外部コンサル人材が、**町の立場**として議論に参加

→**専門知識**がフルに生きる

→**他地域事例**の適切な紹介により議論が活発化

→関係ステークホルダー**調整に表立って参加**できる

○外部コンサルが地域で活躍できる！

※もちろん、その人材の良し悪しに左右される面はある

○一方で、企業側にも覚悟が必要(人だし=人材不足)

3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P25

④ 観光部局(町、DMO)との密な連携

○湯沢版MaaS実証事業の段階から、観光部局(町、DMO)とともに事業をつくりあげた

→成功体験を共有

○協議会の場でも、観光部局(町、DMO)の発言が多い

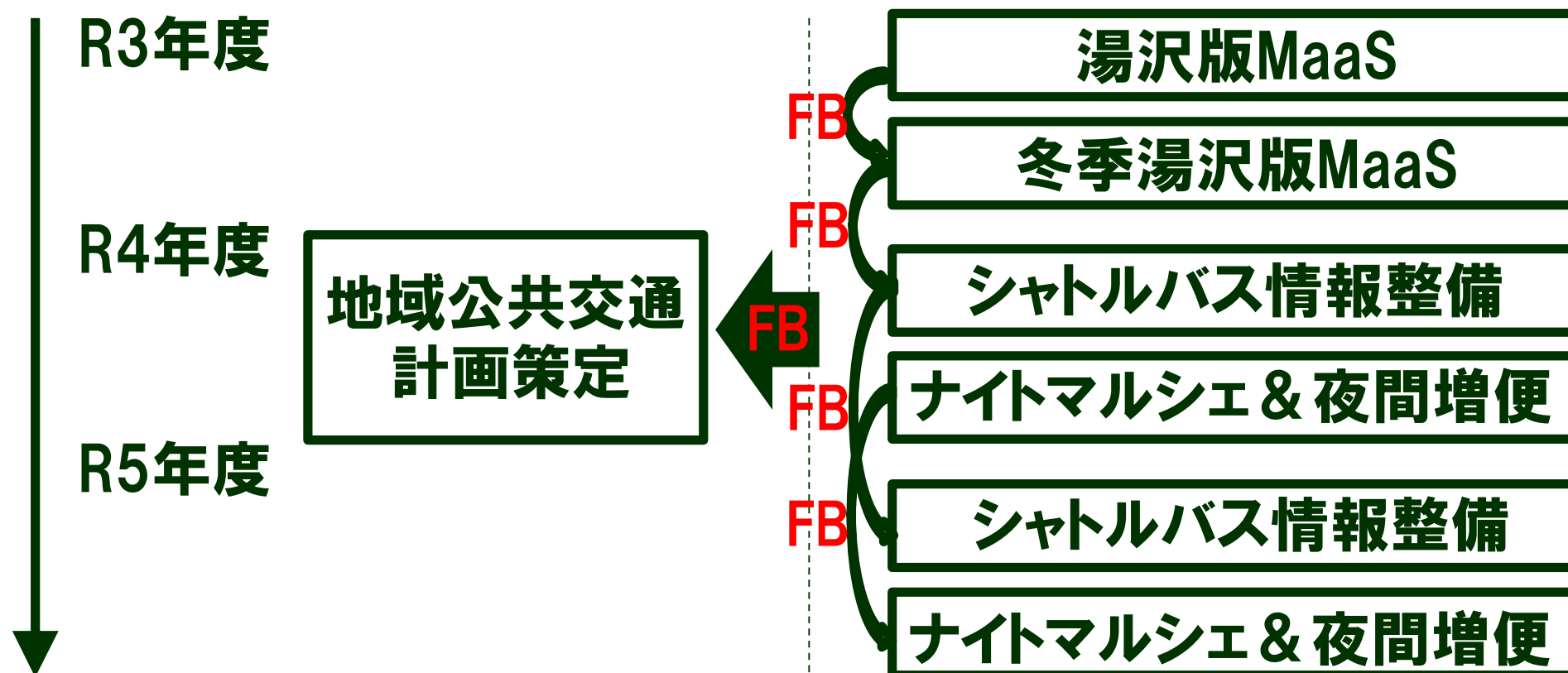
→湯沢版MaaSの成功体験により、地域住民×観光客がともに利用しやすい地域公共交通を構築することの必要性を共通認識とすることができた

→交通部局と観光部局が密に連携できており、また信頼関係もあることから、積極的な発言が多い

3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P26

⑤アジャイルな施策実施・フィードバック

- 法定計画策定と並行して、アジャイルに施策を実施し、次年度施策および法定計画にフィードバックをおこなっている
- 成功体験を重ねることにより、一層の一体感がうまれる



3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P27

湯沢版MaaS



3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P28

シャトルバス情報整備



3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P29

シャトルバス情報整備



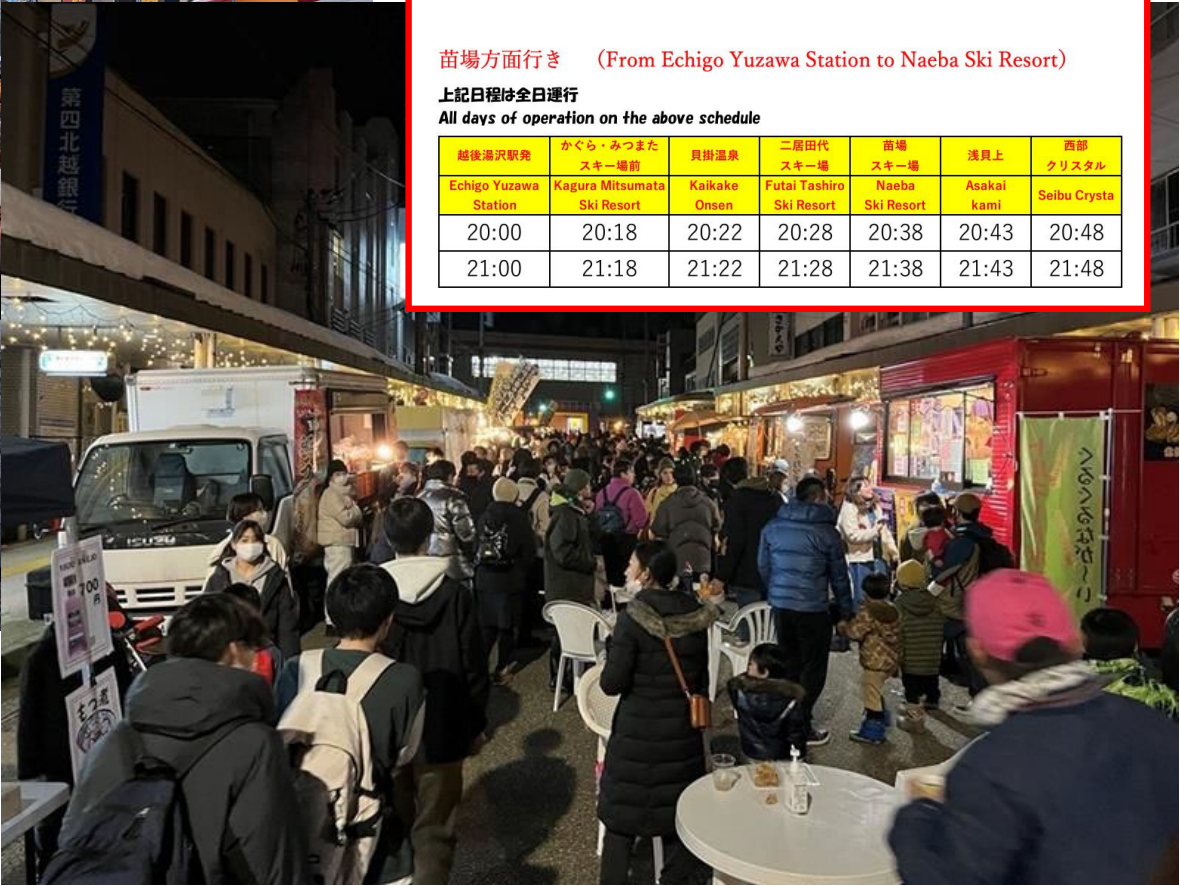
3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P30

ナイトマルシェ&夜間増便



3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P31

ナイトマルシェ & 夜間増便



路線バスの夜間増便 in 2024
Special Night Bus Time table

1月 → 1/6(土)、1/13(土)、1/19(金)、1/20(土)、1/27(土)
2月 → 2/3(土)、2/10(土)、2/11(日)、2/17(土)、2/24(土)
3月 → 3/1(土)、3/2(土)、3/9(土)

苗場方面行き (From Echigo Yuzawa Station to Naeba Ski Resort)
 上記日程は全日運行
 All days of operation on the above schedule

越後湯沢駅発	かぐら・みつまた スキー場前	貝掛温泉	二層田代 スキー場	苗場 スキー場	浅貝上	西部 クリスタル
Echigo Yuzawa Station	Kagura Mitsumata Ski Resort	Kaikake Onsen	Futai Tashiro Ski Resort	Naeba Ski Resort	Asakai kami	Seibu Crysta
20:00	20:18	20:22	20:28	20:38	20:43	20:48
21:00	21:18	21:22	21:28	21:38	21:43	21:48

3. 活発な協議会の事例紹介～新潟県湯沢町～ P32

⑥町長の協議会参加

- 協議会に町長ご自身が協議会に毎回参加
→協議会の熱量が伝わり予算化へ

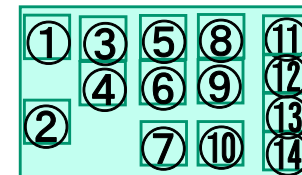
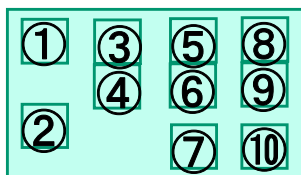


4. 地域公共交通に 関する話題提供

4. 地域公共交通に関する話題提供



L:5380
W:1880
H:2285



5. おわりに
～協議会の活性化に向けた
運輸支局の役割～

5. おわりに～協議会の活性化に向けた運輸支局の役割～ P36

運輸局職員は協議会の場でもっと発言を

- 運輸局は、法律や制度のアップデート情報を、鮮度が高いうちに協議会の場で周知すべき
- 他地域での事例をもとに、当該市での活用可能性についてアドバイスすべき

運輸局職員は協議会以外の場でもっと関わりを

- 運輸局は、もっと施策の計画の段階から議論に入ってくるべき
 - ーできあがった施策に対して、法律や制度に照らし合わせて Yes or No のジャッジをするだけではもったいない
- 特に、実証事業は良い関係性構築＝活発な協議会のきっかけとなるため、積極的に支援すべき

ご清聴ありがとうございました

「北陸信越/地域交通パートナー制度」概要

運輸局による人材マッチング

- ・運輸局HPでの掲載
(氏名、所属、専門分野、活動拠点等)
- ・自治体等からの依頼に応じて運輸局から有識者を紹介
(該当者には事前確認)

運輸局との相互関係構築

- ・運輸局からの情報発信
(関係制度の最新状況、国全体での検討状況等をメール配信)
- ・有識者から運輸局への相談体制の構築

▶▶北陸信越全体での地域交通人材ネットワークの構築へ

(自治体等) 本制度を活用し、課題に応じた専門的助言を得つつ、取組の深化に努める。
(運輸局) 有識者と連携し、北陸信越地域全体での地域交通の再構築を加速する。



当研究室も地域公共交通の
相談窓口と自負しております
お気軽にご相談ください